

特 別 | 対 談

つながり、 ひらく、 新しい世界を

NTT西日本株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

北村亮太氏

(きたむら・りょうた) 1965年生まれ。88年に東北大学法学部を卒業し、日本電信電話（NTT）に入社。2011年にNTT東日本経営企画部営業企画部門長、18年にNTT取締役経営企画部門長を歴任。22年にNTT東日本代表取締役副社長となり、24年4月より現職。

慶應義塾大学医学部教授
大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー

宮田裕章氏

(みやた・ひろあき) 1978年生まれ。2003年に東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修士課程修了。日本のデータサイエンス分野の第一人者で、約5,000病院が参加する「National Clinical Database」やコロナ全国調査などさまざまなデータの利活用や社会の共創モデル構築に取り組む。26年4月開学予定の「コー・イノベーション大学」(旧飛騨高山大学)の学長候補。

五感がひらく、未来の コミュニケーションの扉

北村 私たちのパビリオンは「パレルトラベル」をコンセプトに、大阪万博が開催された1970年と2025年の二つの時空を行き来し、「IOWN」による「コミュニケーション」の未来をめぐる旅」を体験いただくものでした。Perfume（パフューム）さんのコラボレーションによる「空間伝送」では音声・映像だけでなく振動まで伝送し、五感を通じて空間や感覚を共有することで、物理的・心理的な壁を乗り越え、誰もががあるがままに幸福に生ざられる世界観を描いています。

パビリオンには約39万人、周辺の実験エリアも含めると約185万人の方に来場いただきました。パビリオンの運営はすべてグループ社員が担い、真心を込めたもてなしに「奇跡のパビリオン」と言っていただけにとっても非常に嬉しく思っています。

宮田 まさにNTTパビリオンは、電話からIOWNへと至る歴史を提示し、情報革命という文明の転換点、本質論を表現していました。北村社長が言われた「五感」や「つながりによる幸せ」といったテーマは、私たちのパビリオンの世界観とも深く共鳴します。

北村 宮田先生のパビリオンは森と調和した空間が本当に印象的でした。特に共鳴の演出が素晴らしい。振動を感じる仕掛けを通じて参加者同士が感覚を分かち合い、私たちがめざした世界観と相通ずるものを感じました。

宮田 新しい技術によって人と人と世界などのつながりを結びなおすことができるのではと考えています。今までは画一的な未来や、画一的な幸せしかめざせなかったがIOWNのような新しい技術は一人ひとりの多様性に寄り添うことを可能にし、誰も取り残さない社会につながる。万博の最大のレガシーは約2900万人の来場者つまり「人」その

ものです。NTTパビリオンをはじめとする素晴らしいコンテンツを通じて、「多様でありながら、ひとつ」という理念やさまざまな未来の可能性が来場者に伝わったことがとても良かったと思います。

来場者が主役、 体感型万博の新境地

北村 今回の万博は、単なる展示の場ではなく、未来の社会を体験できる実証の場として極めて意義深いものでした。私たちもIOWNの可能性を具体的に示すため、さまざまなユーザーの実証実験を行いました。

「1万人の第九 EXPO2025」ではIOWNを活用し、会場で600mにわたって並ぶ合唱団の音声遅延をリアルタイムで補正し、一体感ある演奏を実現しました。また会期中は放送局向けにリモート制作環境を提供。会場内のサテライトスタジオとデータセンター上の制作設備をIOWNで結び、複数の放送局が遠隔から番組制作を行いました。その他10件の実証を行い、来場者の方々に「こんな未来が間近に迫っているのか」と実感いただけたことは、大きな手応えになりました。私たちの次の責務は、この万博での実証を確かなレガシーとして、社会実装へと着実につなげていくことです。

宮田 実証の場に加え、来場者と共につくりあげた万博だったとも言えます。来場者が当初の興味とは異なるパビリオンにも足を運び、自身の価値観と遠いものにも面白さを見出し、いくなく、五感を通じて、それもデジタル技術を加えることで拡張した五感感覚の中で、多様性の価値を発見するプロセスが万博にはありました。来場者という最後のピースがはまって初めて、万博は完成したと実感しています。

技術が広げる、 新たな価値創造

宮田 万博を通して、これからのまちは一方的に答えが与えられる場所ではなく、共に問いを開く場所へと変わっていくでしょう。従来のデジタル空間は、分断を助長しがちなエコーチェンバー※となり得ましたが、万博が示したように、五感と運動した新しいデジタル技術はこの分



「つながり」その先へ、 共創が未来を動かす

北村 私たちのパーパス存在意義は「『つながり』その先に「ひらく」あたらしい世界のトビラを」です。未来の創造は「社では成し遂げられず、共鳴・共感しながら多様な仲間と共創することが不可欠です。データ活用においては、特定企業による独占ではなく、さまざまな主体がデータを持ち寄り掛け合わせる日本型モデルを推進すべきだと考えています。これにより、日本の価値創造力を高め、あらゆる人が豊かで幸せを実感できる社会を実現できると信じています。

宮田 「つながり、ひらく」という言葉は、まさに今回の万博の核心を突くコンセプトでした。社会は経済合理性から「一人ひとりの幸せや豊かさ」を価値とする新しい段階に移行しつつあります。万博で生まれたさまざまな共鳴の先に、一人ひとりが輝ける新しい社会を築いていくはずで、閉幕後も残すことが決まった「静けさの森」でIOWNを使った新しい体験を定期的に実装するなど、NTTパビリオンが刻んだ楔を一緒に発展させていくと嬉しそうです。

北村 私たちの持つ技術を活かし、宮田さんをはじめ、多様なパートナーとともに、「つながり、ひらく」共創の力で、誰もが幸せを実感できる持続可能な未来を切り拓いていきたいです。

未来社会を支える新しいネットワーク「IOWN（アイオン）」

Innovative Optical and Wireless Networkの略。光技術を活用し、高速・大容量通信を可能にする次世代通信基盤。消費電力と遅延を大幅に抑え、豊かな未来社会の実現をめざす。



※1.APN: All-Photonics Network ※2.光ファイバー1本あたりの通信容量の目標値 ※3.フォトリソ技術適用部分の電力効率の目標値 ※4.同一県内で圧縮処理が不要となる映像トラフィックでの遅延の目標値